

真・ミツオ転生

鼻水卓

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ペルソナ4の世界に転生!と思いきやなんか色々おかしいぞ!特に俺!

元々読み専だったのでつたない文章ですがもしよかったですら応援してください

・ 駄文注意

・ 作者の自己満足

# 目次

前日譚

人生（クソゲー）

1

現状把握

4

八十稲葉市探索

1

7

八十稲葉市探索

2

11

八十稲葉市探索

3

17

クエスト001 だいだら. の再出発

26



「天寿かよおおおおおおおおお!!!」

「;;;知らない天井だ、;;」素でこのセリフが出るとは思わなかった。  
白い天井、少しツンとした匂い。十中八九病院だろう。

バツツ、と邪魔な布団を払いのける。春とはいえ朝なのでまだ気温  
が低く、身体が少し震える。

俺は夏に死んだ。しかしこの微妙な寒さは十中八九春だろう。;;;  
温度差で風邪ひきそう。

「あーつと、メガネメガネは、;;、お、あつた」

長年メガネをかけている自分にとつて、もはやメガネは必需品。メ  
ガネは顔の一部とはよくいったものぜな。CM自体は知らんけど。

;;;;;; ( ·ω· ) ンンン? スゲー自然に流したけど、こ  
の体の持ち主もメガネ使ってたのか? まさかの偶然!

コンコン

へ?

「失礼しまー——」

;;;; なんかナースさんっぽいのが入ってきたと思つたら固まっ  
ちやたよ。とりあえず、

「えーと、おはようございます?」

次の瞬間、ナースさんがすごい勢いでナースコールを押した。

やーその後は大変だった。医者は飛んでくるし検査漬けにはなるし母親っぽいのは胸元で泣きじやくるし。

簡単な受け答えの時に「私は誰ですか？」とか聞いたら記憶喪失を疑われてまたひと悶着。その後は何とか取り繕うのが大変だった。すっかり午前が潰れ、午後の1時を回ったあと、遅めの昼を食べた後、たまたまよったトイレの鏡を見たその瞬間、俺は俺の名前と、一つの真実に辿り着いた。

グレーがかかった黒髪、原作より少し？せている頬、薄めの唇、泣きぼくろ、そして原作よりも遥かに曇りが薄い目にメガネをかけている。

そう、久保美津雄に転生していた。そして、

「ここペルソナ4の世界かよ!!」

## 現状把握

ドーモ、皆々サン。まさかのゲーム内の三下、ある意味での不憫枠に転生した久保美津雄です。とりあえず挨拶から入ってみた。意味はない。まあ古事記にも挨拶は大事って書いてあるし( )

さて、ふざけるのはここまでにしてと。

なぜ俺が、いやなぜ久保美津雄の体が倒れていたかというと、

旅行にいったから

らしい。どうやらこいつ、中学卒業の後のちよい多い春休みの時に急に「プチ旅行に行く、三日ぐらい」とか言って電車に乗り込んで行ってしまったらしい。

んで三日過ぎても帰ってこないうえ、警察に行方不明で創作届を出そうとした時に、こいつが意識不明で倒れていたのが見つかった。外傷は全くなく、しかし原因不明の症状で一時は死にかけていたらしい。道理で大騒ぎになるはずだ。

・・・正直に言おう、マジの意味で頭を抱えてしまった。

意識不明の下りであまり考えたくない事原作に巻き込まれるが確定してしまった。

期間が短いとはいえ一度は八十稲葉から離れて、そして帰ってきたこと。原作での死亡イベントと同じ症状。

そして何より、自分の中にいるもう1人の存在

ん  
!!!!ん  
・・・ミスリやがったなナミスあああああああんんんん

見せられないよ!  
青年発狂中

お目汚し失礼。しかし俺にとってはかなりの一大事(矛盾してるゾ

☆)なんだよ!

あ、アオハルされる……!陽キャの一人にされちゃう……!  
!元々ボツチ&陰キャの俺にはペルソナの、いやアトラスのゲームの  
中でも屈指のピュアツピュアな青春物語に耐えられねえ!

あの平和に生き延びたい某爆弾魔みたいに何事もなく……いや  
ダメだ女神直々にペルソナ能力もらっちゃったよド畜生!!

……だけど、前世でも大して青春ができなかったんだ。もう一度  
の人生、思いっきり充実させてやろうじゃねえか!

・いやそれくらいのテンションじゃないと乗り切れる自信が  
ねえー!ー!ー!

おっと母さん(暫定)どうしたんだ急に病室なんかきて。今ちよつ  
とナイーブな気分なので一回不貞寝しようと思ってただけ。?、  
この写真は?

えっなにこのりせちーグッズ。俺が倒れていた所に散らばってた  
?

……(眩暈)

いやこいつが買ってない可能せおつとー限定つぼくてすごいプレ  
ミアがつきそう(小並感)な奴がちらほらと見えるなあ(白目)

ツスウー…

コイツりせちーのライブに行つて  
たのかよ

絵面だけ見るとスゲー間抜けな行方不明者だな。

アツハツハツハツハツハーこれ学校に行つた時「アイツりせちー  
グッズに囲まれて死にかけてたらしいぜー」とか言われたい?スゲー  
不名誉なんですけどそれ!

ボツチなのはいいんだよ!気楽だし!だけど笑われたくはない!  
だけどなんつーか、もつたいないからなあ。

「あー母さん。」俺の部屋にぶち込んでおいてくれない?



とりあえず、封印するとしよう

## 八十稲葉市探索 1

やあやあどうも久保美津雄に憑依した一般人だ。今は高校で授業を受けてる真っ最中だ。

いやー勉強なんてマジ楽つすわー！自分、大学出てるんで高校の勉強なんてお茶の子さいさいってやつですわー！！

ン な わ け ね え だ ろ

古典めんどくさい数学やりたくない理科わかんない宿題鬱陶しい「文系の教科」もやる、「理系の教科」もやる。両方やらなくっちゃあならないってのが「高校1年」のつらいところだな。覚悟はいいか？俺は心折れそう（泣）

前世では大学も卒業した筈なんだがなー、やはりムズイのはムズイ。転生後早速だけどくじけそう。

いらっしやいませー！ゴチソウサマーあ、ありがとうございます  
たー！

え、今何してるって？ バイト。これからの戦いに向けてお金はあつて困らないだろうし。

そのバイト先だが、愛屋である。ペルソナ4ではスペシャル肉丼に挑める場所でもある。まだ厨房には立たせてもらえず、基本は配膳やテーブル拭きだけどこれがなかなか鍛えられる。

▽体力が上がった

・・・なんかいきなり脳内にテロップみたいなものが出できたんですけど。まさかのステータス上昇効果有りかよこのバイト。ペルソナ5からだったぞその要素追加されるの。

いつか来るあの原作主人公シスコンに教えようか。

もしかしてSPも上がる所もあったりする？（名推理）

「しっかし、ほんと何もないなこの町。バイトするか、友達と遊ぶしかないとは誰の言葉だったか。学生なら部活っていう手段もあると思うけど。」

自分で言っておいてだが、部活には入ってない。なぜなら、俺の使う武器の性能上、合う部活がないからだ。

俺が使おうと思っている武器の種類は槍、いや、棒、という方が正しいだろうか。長さは槍だが、穂先がないので多分棒であつては。理由としては、携帯していてもある程度不自然じゃない事、そして俺が武器を全く扱ったことがないことの2つである。

前者の理由だが、よく子供が意味もなく棒をもつて振り回しながら遊んでいるのを見たことがあるだろうか？あれの延長上で、高校生の俺が持っているのでも、俺の社会的地位が少し揺るぐだけであまり気にはされないだろう。

・・・早めに長さを変えられる武器を見つけなければ！具体的には呪○廻戦の禪○真希や刃○の烈○王が使う三節棍、とある魔術の禁○目録の五禾口が使う海軍用船上槍などがいいかもしれない。

・・・全員ヒロイン○の武器っていうのはとりあえず置いていいだ。

後者の理由としては、槍は非常に扱いやすい部類に入る。ちょうど先日、日本史の授業で習ったのだが、豊臣秀吉が統率した碌な訓練をしていない状態の長い槍を用いた武士の軍隊が、みっちり訓練した

短い槍を用いた軍隊に勝った、というものだ。

ところで今、俺は河川敷にやってきている。無論、修練のためだ。いくら扱いやすいといっても武器は武器。練習はして損はないだろう。

やはり基本の突きからだろう。ここに来る前に拾っていた竹を木に向かつて構える。

▽竹 を手に入れた

武器判定に入るのかこれ。先を削れば竹やりになるんだろうか？

「とりあえず、突いてみなくちや分からない。習うよりかは慣れてみようか！」

ズドムツ！（木に竹を突き刺す音）

ジーーーーー（腕がしびれる音）

ゴロゴロゴロゴロ（ヌオオオオオ!?と悶絶しながら転がる音）

ひでえ目にあつた。あれだ、慣性の法則? ってやつ? めつつつつつちや手がびりびりした（小並感）

失敗は成功の基ともいう。少し振り方を考えた方がいいか。先ほどの豊臣秀吉の話にあつた長い槍を使った武士たちに与えられた指示は3つ。突け、払え、叩け。それを踏まえて力加減も調整しつつ、下段に一突き、すぐさま上段に一突き、そのまま上段から叩きつけ、反対の中段に移動した穂先を幹に叩きこみ、身をひるがえしながら払った穂先をまた幹に、身を後ろに引きながら返す刀（棒だけ）で幹をひっぱたく、そして肩の上に乗せるように抱えて・・・!

ズ、ドムツ!!

critical  
・・・いいね、ほとんど反動もない。これで基本の型は完成かな。  
木にかけてあったタオルで汗をぬぐっていると、

「あー！あたしの特訓場に誰がいる！まさかあたしに仕向けられた  
刺客!？」

振り返ってみると、少し明るい茶髪に緑のジャージ、里中千枝が  
立っていた、というか警戒していた。

誰が刺客だ誰が。映画の見すぎじゃねーのか？確かにうさんくさ  
いかもしれないけどさ。

## 八十稲葉市探索 2

タタつと軽いフットワークで助走をつけて飛び上がり、空中でクルリと一回転。そして靴底をこちらに向けた飛び蹴り。それはまさしく——

「! ライダーk 「ドラゴンキー——ツク!!」 あつぶねエエエ!!」  
すかさず竹で受け止める。蹴った張本人は竹で受け止めた時の反動エネルギーで後ろにジャンプして距離を取っている。地味に高度な事しやがる。

「とんぼがえり」をリアルで見る日が来るとは思わなかったな、10点。

うーむ、このころから綺麗な御足をされておられる、じゃなくてあれどう見てもライダーキックだろ、でもなくて!

「いっきなり初対面の人に向けて何しやがる!」

「へっ!? あ、その・・・ご、ごめんなさい! 人違いでした!」

「俺みたいな棒で特訓している奴がほかにいるのか!」

それはそれで見てみたい。

「で、だ。 誰と俺を間違えたんだ?」

「最近見たカンフーの映画で、棒使って敵をバツタバツタ倒すシーンがあつて!」

「それが俺を襲うことと何の関係があるんだ?」

「あたしの蹴り技が通じるかどうか確かめたかったんデス・・・」

「怖いなおい!」

なんだこの戦闘民族!? やめてくださいバーサーカー

「お願い! 今湧き上がってくるこのインスピレーションを試したいの! あたしの特訓に付き合つて!」

「うーん急展開。さすがに君を打つのも、君に蹴られるのも嫌なんだけど・・・」

「じゃあ肉おごるから!」

「乗った! ただし今回だけな。」

うーん自分ってこんなにチョロかったけ? だがやはり肉は欲しい

「そうなるalmazはルール設定からだ。俺は棒、そして君は足を使う。お互いの得物のリーチが違うから、」

「あたしが攻撃して、君が守る。」

「まあ、そうなるな。君が俺の懐にもぐりこんだ時点で君の勝ち。俺が一定時間防ぎ続けたら俺の勝ち。これでどうだ？」

「オツケー。時間は10分でいい？」「ああ、時間は俺のケータイで計るぞ」

「・・・なんだかんだ言って君も特訓に乗り気じゃん」

「木相手に打ち込みは飽きたんでな、ああは言ってたけどいいところに来てくれた。」

「言うねー。あたしは里中千枝。ねえ、君の名前は？」

「久保だ、久保美津雄。所属高校は八十神高校、1年だ。」

「ええ！それだったら先輩じゃん！」

・・・・・・は？

ぜえー。はあー。ぜえー。はあー。いやあーきついつす。最後の言葉にびつくりして隙をさらしたとはいえ、あの連撃は光るものがあった。こっちは付け焼き刃とはいえかなりリーチの差があるのに、守るのに精一杯で全く攻撃に転じることができなかった。

かかと落としで横向きに防御していた竹が折れた時なんか「折れたあ!」と素でリアクションしてしまうぐらいには。

タイマー機能が10分を過ぎてから何回ジリジリを聞いたころだろうか。双剣(〇)となった竹を振り回し、何とか里中の攻撃を防御しきる。

そして、俺にやつと攻撃のチャンスがくる。正拳突きならぬ右の正脚突きを竹を十字に組んで受けきり、右に弾き飛ばす。体制が右に傾き、左側ががら空きになる。

その僅かにできた隙に左の竹を差し込む。ただし思いっきり顔に向かつてしまう。女の顔に傷がつくことの意味を思い出すかも知れない。勢いのついた攻撃はすぐには止まれない。だってマジで命の危機を感じてるんだもん今！

しかしさすがは肉食獣、間違えた里中、普通なら顔を狙われたら後ろに下がる所を、右に傾いている、つまり背中が見えている体制から咄嗟に後ろ回し蹴りを繰り出した。俺の右側頭部に脚がうなりをあげながら迫る。しかもその時の体制が突きから顔をそらすことに成功していた。上手い。そのまま蹴られる！と思った瞬間

「千枝！」

と、悲鳴のような甲高い声が響く。クロスカウンターみたいな体制のまま、思わず体が硬直する。脚がビツタア！って効果音が付きそうな勢いで止まる。

目だけ動かし、声の主を見る。ただ、大体予想がつく。

そこにいたのはやはり天城Y誰だお前!?!?

「雪子!？」

「何やってるの千枝！男の人と、しかも武器を持っている人と戦うなんて!!」

「で、でもあたしはこのインスピレーションを・・・」

「私は千枝のことを大切に思っているの！だから千枝に怪我してほしくない!!」

「雪子・・・」「千枝っ」「雪子っ!」「千枝っ!!」

あ、ありのまま 今起こった事を話すぜ！「俺たちがXのような体制を取っていたと思ったら、千枝X雪子にハッテンしていた」な…何を言っているのかわからねーと思うが、おれも 何が起こったのかわからなかった…頭が（尊みで）どうにかなりそうだった…レズとか百合とかそんなチャチなもんじゃあ断じてねえ もっと尊いものの片鱗を味わったぜ……



というか構図がヤバい。

これが ↓ こうなつて ↓ こうなつた

女 男 女 男 女 女×女 男

一瞬でも百合の間に挟まっていたんだ、色んな所から怒られそう

(震え声)

だがその前に、

「それで、あなたは、私の、千枝に、何 を し て る ん で す  
か？ 」

「ヒエッ」

この人の怒りを鎮めないとな・・・

背中に般若を背負いながらこちらを見る目が爛爛と光る。心なしか短い髪も逆立っているように見える。

この後滅茶苦茶説明した

「ごめんなさい！私の早とちりでした！」

「ああうんおk別にいいよ」

ゲジャヴを感じる構図だ・・・

「・・・随分あっさりと許すんですね。」

「だって許さないと『あなたも千枝を傷物にしようと思いましたよね？』  
とか言つてきそうだし。」

「そんなこと・・・しませんよ。」

「そしてこの間の長さである。」

凶星だったかー。

「というわけで千枝に謝ってください。」

「や、というわけにはならないでしょ。もともとあたしが勝負ぶつか  
k 「里中さんマジすいませんでした」ちよつとお!」

雪子さんまじ怖えつす。相性的な要因もあるかもしれないけど。

(原作基準)

「はあ、どつと疲れた・・・」

「なんか、ごめんね？色々。」

「おう、色々。とはいえなかなかいい経験ができた、ありがとう。」  
「えへへ、こちらこそありがとう。」

「どういたしました。あ、そうだ、そっちの君は何て名前なんだ？」  
「え、どうして名前を教えないといけないの？」

「さすがに名の分からない人から敵意を向けられると気持ち悪いからねー。えっと、灰色さん？」

「その名前やめてくれませんか？」

「ちよ、ちよつと二人共、なんでギスギスしてるの!？」

「いやー初っ端から敵意を向けられて、それを許せるほど、俺も人間できてないんでね。」

「・・・分かりました。天城雪子と申します。次は灰色とは呼ばないで下さい。」

「了解つと」

「あなた、なかなか食えない人ですね」

「そいつはどうも。里中さん、自分はそろそろ帰るからお肉はまたの機会にな。」

「う、うん。じゃあね！」

チエ、ワタシツテソンナニジミカナ。アータシカニコノママダツタ  
ライロガウスイキガスル。エ…ソツカア…。ワー!! ソンナニオチコ  
マナイデー! ジャア、チエハドンナイロガアウトオモウ? エ!?!、エツト  
…アカ、ユキコニハアカガニアウトオモウ!

さて、と。そろそろ現実を確認しなければいけない。生前原ペルソナ  
をやりこんでいたからこそ分かった。天城雪子は作ペルソナ4では赤  
の申し子で大和撫子だったが、俺とさつきあつたとき、髪をぱつん  
にして、全く赤の部分がなかった。

そう、P3Pで追加された中学生の天城雪子だ。

そして、もう一つの証拠を見つけるために、俺は今、ジュネス建設

予定地に来ている。原作にある、花村陽介が転校してきたタイミングとジユネスができたタイミングが同じと仮定すると、与えられた猶予は1年、そう思っていた。

そんなことを考えていると、いつの間にかジユネス建設予定地に到着していた。少し探すと何が建設されるか書かれた紙が目に残まる。建設予定日時は、2011年3月30日。

俺は転生後にまず、今が何年か確かめるべきだった。

ケータイに映し出される年月は、2009年4月30日。

「勘違いしていた…。俺に与えられた準備時間は、1年じゃない。2年だ」

まさかの先輩属性を得た。

## 八十稲葉市探索 3

時刻：放課後 場所：図書室

パラリ：パラリ……と本をめくる音と鉛筆の走る音、そしてたまに誰かがこそこそと話している声としとしという雨音の四重奏が部屋に静かに響く。知識が上がった気がする。

……まあ、調べ物をするにはとてもいい環境である。

ジュネス建設予定地を訪れてから翌日、俺は少し調べ物をするために図書室を訪れている。調べているのは二つ、八十稲葉の都市伝説……要するにマヨナカテレビについて何かないか調べている。

……と思つてたんだがなー、まっつっつっつたくない、マヨナカテレビのマの字もかすりもしない。ある程度予想はしとつたけどかなり落ち込むな…。

気を取り直して。もう一つの調べ物を終わらせよう、辰巳ポータイランドについて。

時刻：深夜 場所：家、自分の部屋

なかったよ、ですよね。だって影時間とか最大の厄ネタ、地元でもない関係ない都市の図書室に置くわけないし。

人工島計画文書がタルタロスで手に入っていることを覚えている時点で分かつてはいたが。

ここでちょっと説明。ペルソナ3とペルソナ4の世界線はつながっており、主人公sが月光館学園に修学旅行に行った時、その生徒会長だった伏見千尋が高校三年生だった。

そしてペルソナ3本編では伏見千尋は高校一年生だった。

つまり逆算的に考えると今、巖戸台でもペルソナ<sup>原</sup>3が始まっている。

さて、答え合わせの時間だ。只今の時間、11時59分。あと一分で影時間に入る。俺もペルソナを持って以上、影時間に入る、というのが俺の仮説だ。

そんなことを思っていると秒針が10を過ぎる。まさしく緊張の瞬間だ。

そして、全ての、針が、重なった

．  
．  
．  
．  
．  
．  
．  
．  
．  
．  
い。何も起きない。緑っぽい世界も、大きな月も、何も起きない。

「何もなかったと安堵すればいいのか、それとも首を突っ込めないことに残念と思えばいいのか。」

明日は土曜日、令和ではありえなかった午前授業がある。もう12時を過ぎている。

しかし俺の休息は、意外というか当たり前というか。突然始まった現象に遮られた、

ザザ………ピ——

それがついてたのはいつからだっただろう。俺が影時間に夢中になっっているあまりすっぱりと頭から抜け落ちている間、その名前のおり、真夜中<sup>1 2 時</sup>からか。

天気予報だと、今日は、一日中雨だ。

「え、まさか、マヨナカテレビ!」

いや、確かに諸々の条件はクリアしている。じゃあどうするか。

・・・別に反応しなくてもよくね? どうせ後々関わるんだから今無理に関わっても変わらないし、何よりも眠い。

こういうのは無視に限る。

ピ・・・ザザ・・・

「…」

ザザザザ・・・ザザ・・・

「……」

ザザザザザザザザザザザザ!

「やかましい!鬱陶しいぞ!!」

自己主張激しすぎんだろこのテレビ!かまってちゃんか!

…このまま終わったアナログ放送みたく砂嵐を発生し続けられても眠れねえ、見るだけ見てみよう。

俺はメガネもかけずにテレビを見ようとした。どうせ1分か2分そこらで終わるだろうし。

ここで不運だったのは俺がムカついて勢い良く起き上がってしまっただことだ。

どうなったかって? 起立性低血圧を発症・・・要するに立ちくらみがおこった。

「うつ・・・」(グラッ)

そして、

ちやぽん

「・・・ちやぽん?・・・なっ!」

視界がクリアになると同時に、俺は俺がどうなっているかを知り、そして驚愕した。

テレビの中に頭どころか腰までずっぷり浸かりながら、不思議な空

間に身を乗り出しそうになっている姿。

そしてその体制では踏ん張ることもままならず、俺はテレビの中にその身を投じた。

(こういう落ちていく状況ってやつば叫んだ方がいいんだろうか?)

…我ながらこんな思考でいいんだろうか?

ドカツ

「イテッ」

背中になかなかの衝撃が走り、フリーフォールからやっと解放された。

のそりと起き上がるとやはり、黒と赤が縞々になった空が広がる異様な世界が存在していた。

「空が青くないというのは、思った以上に気持ち悪いもんだ。」

周りを見回すと、ちょうど商店街の南側に位置する場所だろうか?

クマが来るまでは帰れねえし、ペルソナの試運転でもしとくかな…

うん?

クマが来るまで帰れない

クマが来るまで帰れない

…詰んだ?もうこれ詰んじゃった?真・ミツオ転生完!?

いやこんなあっけなく終わらせれねえ、できることは何でも試さねえと!

そうなるalmazは、せつかくテレビの中に来たんだし、やることは一つ!

手のひらを開き、前に手を伸ばす。伸ばした先に浮遊してきた青く光るカードを手中に収め、思い切り握りしめて叫ぶ

「ペルソナー！」

でてこい俺の半身！「オニキリ！」

ゴウと突風が吹いた後、俺のペルソナーが現れていた。その姿は一言で言い表すと紫のオーラをまとった無貌の鎧武者。色んな所がボロボロで、黒い鎧の下が何も無いことから、甲冑のリビングアーマーってことになるんだろうか。明らかに闇属性を扱いそうだ。

そして何よりも目を引くのがその武器、八角錐からとがっている所を切り落としたような黒く巨大な鞘、そこにさしてある：刀？たぶん太太刀と表せるような刀が差してある。ペルソナーを操作して抜かせて見ると、青白く光る刀身が姿を現した。

そしてなぜか鏢が正三角形であり、その一角が刃と同じ向きをしている。

おっとお？なんかクソデカ鞘の側面に「物」「火」「氷」「風」「雷」「闇」「光」「万」の漢字が彫られとりますなあ。：全属性使いとか、一気になろう感が増してきちゃったなあ。

抜いたままだった刀を鞘に戻す。今は刀身が「物」に向いている：なるほど、鏢の一角が今の属性を表しているのか、ということとは

ガチャリと柄をダイヤルのように回して「火」に合わせると鞘の側面の長辺から一瞬炎が噴き出す。

そのまま刀身を抜くとあら不思議、刀が炎を纏ってるじゃありませんか。

他の属性も同じように属性も同じような反応だったが、「物」だけは何も起こらず。

俺が「万」を試そうと鏢を合わせた時、その反応は起こった。

鏢を「万」に向け、力を使おうとした途端鞘が展開し、少しだけ覗いた内側から光が溢れ出す。

明らかに何かマズイ。

キャンセルする術も分からない、が、こういうのは力をどつかに吐



き出させるのがいい、とりあえず刀身を抜い

ドツツツグオオオオオオオオン!!!

——暴発するなんて、俺、聞いてない——

べしやつと体の表面全体に痛い。・・・どうやらベクトル的に上に吹っ飛ばされたようだ痛い。デジャヴ？いやテレビから落ちた時以上だ痛い。

万能属性は抜刀するんじゃないやなくてあの馬鹿でかい鞆に入つたまま叩きつけるのが使用方法かな・・・

このままじゃみつともなさすぎなので、とりあえずのそりと顔だけ上げる・・・うわあ地面も一部がえぐられてる。

さっきの爆発音に引き付けられたのか、シャドウがちらほら見える。とつさに物陰に隠れたが、どうしよう。さっきの爆発でクマも気づいたと思うが、シャドウがいる以上こちらには来れないだろう。そして俺が帰るテレビはこちら側。俺ん家のテレビとパスを繋げないといけないので、何としてもシャドウを追い払わないとな・・・

何はともあれ武器だ、ペルソナだけではいつかは精神力がつかまる。・・・なんか天啓がきた気がする。俺のペルソナが使える闇の力（こう書くと中二病っぽいな）を変形させて武器にできないだろうか？

普段ならこんな事は考えないだろう。しかし、今の時間帯は深夜だ。今の俺は情緒がちよつとアレなことになっている。要するに

最深最ッ高に夜『ハイ』ってやっただあああああ!テンシヨン突入入

よーしまずは材料からだ。必要なもの・闇（適量）。俺のペルソナの元々の力なのか、闇属性は刀の属性を変えなくても使えるらしい。そんなことはどうでもいい。

今、俺に天啓がきた気がする、まな板にしようぜ！

はいこねてー延ばしてー畳んでー・・・かなりまな板だよこれ！

感触的には堅めの下敷きっぽい？べっこんべっこんしてる。

次だ次い！面ができるなら線だな。

はい伸ばしてー伸ばしてーまた伸ばしてー・・・おお、糸になった。

・・・はっ、俺は一体何を？どうやら狂気(?)に？まれてしまっ

ていたようだ。

だが意外に面も糸もやり方次第では使えるかもしれない。

ストリングアーツ！

・・・いかん、まだ正気に戻ってないな。

落ち着いてきてからよくよくシャドウを観察してみると・・・いま  
いち名前は覚えてないが、ありやツイインズか。

・・・あの棒引き？がせば武器になるんじゃないかね？糸と板単体だけだ  
といまいち武器にならないからな

はい、抜き足、差し足、忍び足、かーらーのー

アバイテヤル！ ガシツ メリメリメリミチ・・・ブチツ！

▽ツイインズの棒 を 手に入れた ！

もちろん残骸○はムドりました。ムドっても素材つて残るんだね。

そしてわらわらと集まってくるシャドウ達。・・・生きたまま一部

を剥いだから、そりゃ絶叫するし、その声に気づかない訳ないよね。

さて、一掃するか。俺の経験値となれ！

かなり、苦戦した。あの爆発音がかなりでかかったらしく、連戦に

次ぐ連戦で体力も精神力もボロボロだ。ペルソナ自体は動きはそこそこのいいものの、鞆が馬鹿でかいのでペルソナが動いて避けれずに攻撃を受けることが多かった。

「だけど、かなり収穫はあった。だいぶレベルも上がったし、何よりも

「だ、だいじょうぶクマ?」

出口ゲット

「まあ、ギリギリだけど大丈夫だ。ところで、君は誰だ? (まあ、知ってるけど)」

「クマは、クマクマ!」

「そうかクマか、いい名前だ。」

「あ、ありがとうクマ!」

「俺は久保美津雄。呼び方は何でもいいぞ。」

「それじゃミッチークマね!」

ミッチーか、いいセンスだ。

よし、つかみはバッチリ。最初は警戒されていたが、一気に懐く寸前までいったな。

「俺、なんかテレビから落ちてきたみたいなんだけど、どっか出口知らない?」

「出口? そんなの知らないクマ」

・・・あるえ?

「じゃ、じゃあ、出口を作る手段とかも、」

「ないクマね」

Oh:::なんてこったい。詰んだ? これ詰んだ?

「ねえねえテレビって何クマ?」

「ああーえつと、四角い箱に一部だけ液晶っていう透明な部分がある電気製品のことだが」

「ああーやっべ最後の希望が潰えた・・・もう野垂れ死ぬしか「それってこんな感じのものクマ?」ないの、か・・・?」

「自ずとorzの体勢になりながらもクマの声に顔を上げると、そこ

にはまさしくあの赤いテレビが一つあり、その液晶にはおぼろげながら自分の部屋が見えた。

・・・何はともあれ、一応帰れそうだ。

「それにしても、なんでいきなりそんな力が使えたんだ？」

「クマ、こんな力あるとは思わなかったクマ。ミツチーが教えてくれたものを作ったらなんかこうなって通じたクマ。クマ、こういう頭つかうこと得意なの、エツヘン、クマ。」

「いや、かなり助かった。ありがとう。」

俺はむふーつと胸をそらせているクマにお礼を言って、テレビの中に入った。

ガンッ

「あ、帰れるテレビがまだ遠いから出てるテレビも1個なの、もうちよつと近づいて3個になったら完全に入れるみたいクマよ。」

「もうちよい先に言ってくれないかなあ。」

あと、このテレビの数ってケータイとかのアンテナみたいなものだったのね

## クエスト001 だいだら。の再出発

「頼むーその素材を譲ってくれねえか!!!」

展開急すぎて草あー。じゃねえわ、なしてこうなった。

いやーひどい目にあったのはテレビの中だけだと思っただら違っらしい、結局深夜を越えて、テレビの中から帰ったときは早朝になりかけていて二時間ぐらいしか寝れなかった。

おかげで寝不足、さらにえげつないほど体を動かしたから全身がガツタガタ。

おつかしーなー、この体16ぐらいのピッチピチ(○)なはずなんだが

すげー眠いはずなんだけど、体に走る痛みがそれを許してくれない。

幸い今日は土曜日、午前だけの授業だけだ。はあ、土日休みになるのはもうちよつと後の時代か、本心ではものすつごく休みt

グキッ

アー！イツタイセガアゝアゝアアー！!!?

オデノカラダハボドボドダ！

夕方、悶絶しながらもやってきたのはだいだら。昨日倒しまくった

シャドウの素材をそのままにしておくのもあれだし、お金になるんじゃないかと思ひ、家からここまで引つ張つてきた。

・・・重い。主に体と素材が。何でこんな時に限つて時間割に体育が入つてゐるんだろうか

「で、俺の記憶が正しければここだよな？」

店先においてある鎧と看板が特徴の、見間違える方が難しい店の、はずなんだ、が。

・・・なんかすつごい負のオーラを纏つてらつしやる。店が。

まあ単純に明かりがついてないだけなんだが、今は夕方、開いててもおかしくないんだが。

店の扉は開け放たれているから一応やつてるらしい。入つてみるか、素材を売らなきゃまた持つて帰ることになるからな、せめて買取だけでもしてほしいけど

店に入った瞬間、俺を待ち構えていたのはS A N値チエツクだった。

大げさだと言われるかもしれないが、中に入った途端、店に負けな、いやむしろ勝る勢いの負のオーラを身に纏つた強面の店主を見たら誰でもこうなろう。

お　う　ち　か　え　り　た　い

失敗してんじゃねえか（持ち直した）

「あの一・・・」

恐る恐る店主に話しかける。

「・・・いらつしやう」

よかつた生きてた。

「このお店って、買い取りっしてしてます?」

「いや、悪いがやってねえ。大荷物抱えてきたあんたには悪いが、売るなら別のところで売ってくれないか、うちにはもう、引き取るだけの金もねえ。」

うわ重つもお。すつごい現実的な問題を出してきやがった。ここゲーム?の世界なのに。

「い、いや頼みますよ!お金とかいららないんで、こういう素材とか処分してくれませんか!?!」

「冷やかしなら結構だぜあんた、そういうのはゴミにでも

・・・おいちよつと待て、そのリュックから覗いてるそれ、見せてみな。」

「これっすか?ちよつと待ってつと、う、うおわ!」

アシクビヲクジキマシター!あーあーあーやっちゃったよ、リュックの中身を盛大にぶちまけちゃった。

「す、すみません!すぐ片づけますんで!」

そういつて床に散らばったシャドウの素材をかき集めようとした時

「頼む!その素材を譲ってくれねえか!!!」

クエスト001 дайだら. の再出発

そしてタイトル通り、こうなったわけだ。まさに手のひらドリル、いい回転だ。

「いやいや、さっきは無理だつて」

「それはすまんかった！そりや普通のガラクタだと思っていたから、ただどこどこにある素材は全部俺の見たことがねえ。こんなにあーと心をくすぐられたのは久しぶりだぜ……！」

なんとということでしょうー( )

さつきまでの暗澹とした雰囲気は何処へ、俺の目の前には目をギラギラと燃やした親方がいるではありませんかー(棒)

正直、お金は今どうでもいい。問題なのはこのままだったら、が原作まで持たない可能性がある。

ここで俺が素材を譲らないのは勝手だ。けど、そうなった場合、誰に皺寄せがくると思う？

番長だ。

まあ、そんなこんなで素材を譲ることになった。

「素材の一部には武器以外の普通の生活用品に転じれるものもあるからな、これならまだ店を立て直せる商品を作って稼げる……！」

……店の方から黒い欲望が漏れ出ていた気がするけどまあ情けは人の為ならずだしな！ヨシ！

しかしクエスト001か、絶対まだ他にもいるよね！荷物の重さに意識を取られてたから気付けなかったけど。

報酬は……まあ今はいいか、未来への投資ってことで